



41+
A2816



改正出板

畧説

大隈侯爵邸寄贈

材智アリテ其國益ヲ計ル者各國ノ政体法律裁判ノ
取行方諸國同等ノ權アル莫教育法教ノ規則其外
西洋開化ノ旨趣ヲ余ニ問フコト屢ナリ其疑問ニ答フルハ此
所ニテナストモ又ハ書籍ヨリ抄出スルトモ十分ナルコトヲ得ヘシト
雖モ其答ヲナス者外國人ナレバ兩三ノ親友ヲ除クノ外敢テ
其説ヲ信スル人ナク又其莫件ハ道理上而已ニ因リテ起ル所
ニアラス多分ハ数百年間ノ實驗ニ因リテ起ル所ナルニ
之レヲ書籍而已ヲ以テ了知セントスルハ此レ又為シ難キ所ナリ

○書冊ヲ以テ此ノ如キ答ヲ為シ此ノ如キ支ヲ知ルハ其論理
上而已ニ於テハ是ルベキコトナリトスベシト雖モ西洋ノ開化ヲ
十分ニ了解セントスルニハ自カラ見聞セズニバアラガルトアリ
元來人自己ノ眼ヲ以テ看視スルハ尤モ確然トシテ其意ヲ
奮發セシムルノ法ナルニ因リ開化ノ説ヲ十分ニ理解シ之ヲ
其國ニ施行セントスルニハ其人自身ニテ見視スルコト必要ナリ
トス今西洋各國ノ形勢支情ヲ爲ト瞭知セントスルニハ其
因テ起ル所ノ原由ヲ知ル而已ニテハ是レリトセズ今日支實ニ
於テ行ハル所ヲモ注意スベキナリ○余ハ各國政律ノ論説
ヲ研究シテ之レヲ實地ニ行フコト能ハズト云フニアラズ之レヲ

實驗スルニハ大ニ其年月金銀ヲ費シ且時アリテハ其試驗極
メテ危キコトアリト云フナリ器械術ノ試験ハ之レヲ為損ジ
タルトモ纒カニ一ノ車輪ヲ破リ又ハ一ノ木槌ヲ折ル而已舍密
術ノ試験ハ之レヲ為損シタルトモ纒ニ一ノ硝子器ヲ破裂セシ
ムル而已ナレトモ國政論説ノ試験ハ之レヲ為損ズレハ衆人又ハ
蓋國ヲ困危ニ陥ラシメ終ニ數多ノ貴キ人命ヲ失ハシムルニモ
至ルコトアルベシ○方今政律經濟教育等ノ支ニ付テハ既ニ
歐羅巴亞米利加ニテ現ニ其實驗ヲ為シ行ヒタルヲ以テ別段
新ニ其試験ヲナスニ及ハス但其現在行ハル所ヲ研究シ之レヲ
良シトスル者ハ之レヲ模シ行フ可シ歐羅巴亞米利加ニテハ數百

年前ヨリ諸様ノ政体諸様ノ法律諸様ノ經濟諸様ノ
教育法ヲ試験シ来リ其因テ成リシ所則チ方今各國ノ
形勢ナリ此ノ如ク諸様ノ体姿アルヲ以テ傍ニ在ル者ハ
其内ノ善ヲ採リ其内ノ惡ヲ避クルコトヲ得ヘキナリ此等ノ
吏ヲ研究シ此等ノ吏ヲ熟考シタルニ因リ余爰ニ其大畧ヲ
掲ケ載ントス○其說漸ク有益トナリ實地ニ行ハルヘキ旨趣
ヲ研究セントスル者ノ為ニ些少ノ益アルコト此レ余カ願フ所
ナリ若シ之レヲ讀ミ其事實ヲ瞭知セント欲スル者アラハ余
更ニ此畧說ヲ補増スルコト幸甚シカルベシ
一判ノ評說ニ因レバ本年ノ秋冬ニ至リ 皇帝陛下ヨリ

條約濟各國ノ朝廷へ別段ノ使節ヲ送り給ハントセル由
ナリ其舉ハ至テ結構ナル吏ナルベシ先年中日本ヨリ海外
へ函三度モ使節ヲ送りタリト雖モ此レ皆將軍仮リニ政權ヲ
握リシ時ナルヲ以テ其項ハ如何程ノ益アリシトモ又ハ如何程ノ
吏情ヲ知ルコトアリシトモ方今ノ政府ニ於テ多分其利益アル
コトナキニ因リ方今ノ政府ヨリ新ニ海外へ使節ヲ送ラハ多
分日本ノ為ニ大益ヲナスコトアルヘシ○政府ニテ真ニ歐羅巴
亞米利加へ使節ヲ送ラントスルト考ヘ且其使節ハ公然ナラ
ザル別段ノ吏務ヲ命セラルヘキモノナリト仮リニ思ヒ成シ余
有益ナルベキ旨趣ト公然タル吏務トニ關係シテ我説ヲ述

ント欲スル所ナリ

皇帝政府ニテ第一等使節ノ職ニ任セント撰擧スベキ人ハ
聰明ニテ英氣アリ且高上ナル性質ニシテ 皇帝及全國
ノ士民十分ニ信據スル尊貴ノ人タルベシ 皇帝陛下ハ公卿
諸侯ノ内ニテ其一等使節ヲ撰擧シ給フコトヲ良シトス其
人日本ニ歸リテ其説ヲ述レバ日本國ノ為ニ大益アルベク之レニ
從ハバ國民ノ幸福ヲ増スコトアルベシ其外使節隨從ノ官
吏皆伶俐英村ノ人ナルベシ
使節ヲ送ルノ旨趣タル私衷ハ如何様ナリトモ各國朝廷ニ
至リテ申述ベキ公然ノ旨趣ノ一タルハ左ノ如クナルベシ

日本帝國ニ大变革アリテ將軍仮リニ握リシ政權ヲ
廢シ 皇帝其 先皇ノ御代ニ於ケル如ク古ニ復シテ
全國ノ政ニ任シ給ヒ大ニ國內ノ紀綱ヲ改正シ猶漸々ニ
其改革ヲ起サント欲シ給ヒ外國交際ヲ泰平親睦ニ
永續セントシ且其交際ニ於テ变革改正ヲ為サント望ミ
給フ其内此レ迄日本ト西洋各國トノ交際ニ於テ西洋
各國ヨリ日本ヲ同等ノ國ナリトシテ取扱フコトナクシテ
日本ハ萬國ノ公法ニテ考フレハ尚各國ノ社友ニ入ルコトヲ
許サレタルコトナキヲ一ノ主意トナシ元ヨリ 皇帝陛下ハ日本
ノ政度法律各國ト異ナルヲ以テ其國ヲ西洋各國ニテ

同等ノ國ナリト考ヘ為サバルノ理ヲ知り給ヒ向後速ニ
日本ヲ西洋各國ト十分同等ナラシメント欲シ給フニ因リ
其有益ナル变革ヲ起スニ取掛ラニカ為ニ條約濟各國
ト商議セント欲シ此度別段ナル使節ヲ送り給ヒ日本ニ
於テ外國トノ交際ヲ右様变革セントスルニ付日本
政府ニテ如何様ナル處置ヲ為シ如何様ナル仕方ヲ設
クルコトヲ各國政府ニテ適當ナリト思ヘルヤヲ各國政府へ
問合サントスルコト具使節ヲ送ルノ大眼目ナルヲ以テ 皇帝
陛下各國政府ヨリ其使節へ右様ノ变革ヲ起スニ要
用ナルベキ處置及謀策ヲ書面ニ認メテ渡サントスルコトヲ

望ミ給ヒ且使節ノ内重立テタル者各國政府ヨリ教
諭シタル支務ヲ特ニ外國政府ニテ命ジタル官吏ト互ニ
論議スルノ免許ヲ得サシメ

皇帝陛下ハ其教諭ヲ熟考シ給ヒ日本國民性歐羅
巴及亞米利加各國ノ開化ト其種ヲ異ニスル其性情ニ適
セル丈ハ其教諭ヲ用ヒ給ハントスルコト其外云々ノ意ヲ述スシ
若シ坎ノ如ク其情ヲ申明シテ言述ルコト不適當ナリト歎
又ハ良シカラズト歎思ハルレバ右様公然ニ言ハズシテ私ニ之レヲ
問合スコトヲ得ベシト雖モ先ツ其問合ノ仕方ニ因ラズ其返
答ノ二三條ヲ當然推知スルコトヲ得ベシ其返答ノ内重大

ナル箇條此ノ如クナルヘシ

第一〇日本ノ法律ノ内民律貿易律刑法律等ハ別段ニ歐羅巴各國ノ法律ト大ニ相違ニ歐羅巴ノ士民及其所持ノ品物ニ日本ノ法ヲ施及スルコト能ハサルヲ以テ日本ノ法律ヲ西洋ニテ遵守スル正理ノ道ニ近付カシムル様变革スルコトノ必要ナル也

第二〇日本政府ハ往來切手ノ規則ヲ確定シ外國人日本國中何レノ地ニテモ旅行ヲナシ商賣ヲ行ヒ住居ヲ定ムルコトヲ自由ナラシメ日本ヨリ外國ニ至レル旅客商佑學生其國々ニ於テ自由ナルガ如クナルヲ得サシムベキ也

第三〇日本ノ開化ハ歐羅巴及亞米利加各國ノ開化ト其種ヲ異ニスル也

第四〇西洋ノ法教ヲ禁スル舊來ノ法ヲ廢捨シ日本人西洋ノ教ヲ信ズルモノ平穩ニ其生涯ヲナシ公然罪ヲ犯サザレハ其教ノ為而已ニテ罰ヲ受ケヌハ死刑ニ處セラルコトナカルベキ也(何レノ宗旨ニテモ勝手ニ免許スベキノ箇條及ビ此書ノ末文ニ載スル増補ヲ見ルベシ)

此四條ノ外些少ノ更件ヲ言出スコトアルベク且此國ノ政府ニテハ此更ヲ旨趣トシ彼國ノ政府ニテハ彼更ヲ旨趣トスルノ差アルベシト雖モ先ツ右ノ四ヶ條ヲ以テ各國政府ヨリ申出ス

ベキノ大眼目トナシ日本ノ政学家向後數年間其研究ニ
勉勵スベキコトナリ

余前文ニ載セタル所ハ今ヨリ前日本政府ノ官吏既ニ了
解シタルエトナルベシト雖モ余此レヨリ後ニ記セントスル所ハ多分
全ク新規ナル論說ナリト思ヘリ

右ニ載セタル如ク四ヶ條ノ返答アリト思ヒ成サバ直ニ其返答
ヲ善ク了解シ研究スルノ豫備ヲ設ケンガ為ニ使節ニ關係シ
タル別段ノ全權人等ヲ任スヘシ其全權人ハ其各々委任セ
ラルヘキ支務ニ格別熟鍊シタルノ見込アルニ因リ其職ヲ命
ゼラルベキナリ但シ一條ノ支務ニ付全權人ノ數三人書記官一

人ヅニテ足レリトス

全權人ノ支 コムミツシヨシ

第一〇一部ノ全權人等ハ世界ノ内最開化シタル四ヶ國又ハ
五ヶ國ノ政度法律ノ論理ト實地ニ行ハル所トヲ研究スヘシ
其全權ノ官吏ハ外國支務局議支院裁判所囚獄等ニ至リ
テ其支務ヲ行フヲ見分スヘシ

第二〇一部ノ全權人等ハ諸國ノ經濟ニ關係セル法則租
稅取立方國債ノ借入方紙幣ノ法政府為替ノ法高估為替
座ノ法火災海上盜難請合會社ノ法貿易會社ノ法金銀
鑄造所ノ法等ヲ研究スベシ

第三〇一部ノ全權人等ハ教育ノ諸基律國民教方公然ノ
学校取建方及費用金高ノ取集方学校ノ規則学校ニテ
教フル諸学科大学校ノ法則等級ヲ与フルノ免許状等ノ
諸吏ヲ研究スベシ其全權ハ公然ノ学校私立ノ学校中學校
大學校貿易学校諸藝術学校公然ノ試業等ヲ見分シテ
其吏務ヲ行フヲ觀ルヘシ

第四〇各部ノ混合シタル全權人等陸軍海軍ヲ募リ軍律ヲ
定メ給料ヲ与ヘテ指揮ヲナスノ法ヲ研究スヘシ此全權人等ハ
高名ナル港ニ至リ軍器庫海軍局造船所兵卒屯所城寨
海陸軍学校等ヲ見分スヘシ

第五〇法教ノ諸吏務ニ付テハ使節ノ上等士官各部ノ全權
人等共ニ皆 皇帝ヨリ各國ニ於テ其吏務ヲ問合スヘキノ
免許ヲ受ルコトヲ良シトス且西洋ノ法教ヲ日本ニ行フコトヲ許
容スルトキハ其教ニ於テ日本政府及國民ノ為ニ別段之危難ニ
シテ且其害タル莫アルヘキヤ否ヲ爲ト研究シ且西洋法教ノ内
如何ナル教日本ノ為ニ害アルヘキヲ熟考スヘキ様別段ノ命令ヲ
受クヘシ

第一節〇使節附属ノ官吏就中書記官ハ其見聞シタル
所ヲ委細書面ニ認メ其各人ノ職掌タル吏務ヲ瞭知セ
ンカ為ニ各々勉メテ書冊等ヲ買求メ自國ニ歸リシ節政府

ニテ其意アラハ使節ノ功業ヲ普ク國民ニ告知セシガ為ニ其
諸吏ヲ編集シテ書籍トナシ之ヲ開板スベシ

第二節○使節ハ尽ク條約濟各國ニ至ルコトアルベシト雖モ
前文ニ記セル如ク其法度ヲ十分ニ研究スルコト要用ナルベキ
國ハ佛朗西英吉利字漏生荷蘭米利堅ノ五ヶ國ナリ此
五ヶ國ノ法度ヲ善ク了解スレバ其他ノ國々ノ法度ハ敢テ研
究スルニ及ハズ仮令ハ英吉利ニ於テハ外國吏務局及貿易局
佛朗西ニ於テハ會計局米利堅字漏生ニ於テハ教育吏務局
ヲ所長トシ就中之レヲ研究シテ其益アルヘシ

第三節○使節各國ヲ巡行スルノ時日ト順序トニ付テハ

使節英吉利ペニシエラル、エンド、ヲリントンタル會社ノ蒸氣飛
脚船又ハ佛朗西メッサゼリー、アマリアール會社ノ蒸氣飛脚船
ニテ西洋ニ趣キ極メテ遅クトモ幾十一月ノ末ニハ巴里斯ヘ到着
スルコト多分最良ナリトス明年ノ夏ハ太平洋鐵路成功スベキ
ヲ以テ華盛頓府ヨリ江戸ヘ至ル旅行ハ大抵三十三日ニテ
為シ得ベシ故ニ使節ハ海外ニ至ル途中炎熱ヲ避ケ歐羅巴
ニ着スル頃ハ丁度政府各局皆其職務ヲ行ヒ居ルヘキ時
ナリ夫レヨリ世界ヲ一周シ翌年ノ仲夏ニ至ラバ日本ニ歸國アル
ベシ

第四節○前文ニ記セシ如ク各吏務ニ付夫レ々別段ナル

全權人ヲ命ズルコト種々ノ益アリ其益ノ一ハ使節隨從ノ人々
自己ノ職掌定リテ其為スベキ所ヲ知り常ニ自己ノ勤務ト
スル所ハ何等ノ支ナルヤヲ解スルヲ以テ其目的タル所不明白
ナルニ因リテ無益ニ時日ヲ費シ又ハ無益ノ勤勞ヲ為スコトナカル
ベシ又其一箇ノ益ハ經濟學ニテ所謂分業ノ法ニシテ使節
士官皆差別ナク同一ノ支務ヲ混合シテ行フタルヨリモ右様
各部ノ全權委任ヲ分チ各其職務ヲ行フトキハ更ニ大ナル
益アルベキナリ又ハ其一箇ノ益ハ使節附屬士官ノ内普ク百支
ニ鍊達セル人アルベシト雖モ各支ニ付夫々委任セラレタル者ヲ命
ズレハ各人其長スル處ノ支務ニ熟達シ政府ニテ國中ノ尤良ナ

ル智材ヲ用フルコトヲ得ベキコトナリ

法教ヲ寛恕スル説

余此レ迄數度談話シタル様子ヨリ推知シタルニハ歐羅巴ニテ法
教寛恕ト稱スル支ヲ日本ニ於テ誤解シタルト思フナリ或人
ノ言ヘル所ニテハ法教ノ寛恕ヲ許ルスハ此レ則チ政府ニテ必ス
公然ト西洋ノ教ヲ採用スルコトヲ布告シ且其教ヲ全國士
民ニモ尊崇セシムル様勸ムルコトナリト思ヘリト然ルニ法教寛恕トハ
元ヨリ此ノ如キ意アルニアラズ且歐羅巴各國政府ニテ此ノ如キ支ヲ
ナスコトナシ英吉利ノ政度ニテ王位ニ昇ル者ハ必スプロテスタント教ヲ
信スル人ナルベシト定マリタルト雖モ英國ノ王猥リニ其他ノ法教ヲ

禁ジ又ハ採用スルノ道理アルコトナク但國民ニ何レノ教ナリトモ
十分自由ニ崇尊スルコトヲ免許スルコトナリ此ノ如ク法教ノ寛
恕ヲ許ルストモ條約又ハ證書ノ類ニ其言ヲ一言半句モ記載シ
唱フルニ及バス只西洋ノ法教ヘ對シ古來ヨリノ禁制ハ方今之レヲ
行フコトヲナサズ士民 皇帝ヘ對シ忠勤ヲ励ミ其國ノ法度ヲ守
リ他ノ士民ト争鬪ヲ起スコトナク正實ニ其職ヲ行ヒ罪過又ハ
不行業ヲナサル時ハ如何様ナリトモ其法教ノ更而已ニシテ罰
セラルコトナキ趣ヲ全國ニ普ク了解セシムルニテ足レリトスル所ナリ
法教ノ寛恕ハ國ノ士民自己ノ意ニテ良シトスル所ノ法教ヲ信
スルコト隨意ナリト許容スル而已ニシテ決ミテ政府ニテ此レ迄確定

シタル法教ヲ廢シ新ニ他ノ教ヲ尊崇スルコトヲ云フニテラス○士民
罪過ヲ犯サハ其法教ハ佛教ナリトモ儒教ナリトモプロテスタント教
ナリトモカトリック教ナリトモ其教ニ因ラス元ヨリ之レ罪人ニシテ罪人ノ取
扱ニナシ國ノ法律ニ從テ罰スベシ

前文ニ記セシ各部全權人ノ内法教而已ニ關係セル一部ノ全權
人ヲ命ズルコトヲ云ハズ但シ法教ノ更ハ使節附屬ノ衆人皆勉メテ
之レヲ鑒察スベキコトナリト云ヘリ其故ハ尋常ノ村カアル人歐羅巴
亞米利加各國ノ士民生涯ノ様子ヲ看テ西洋ノ法教ハ勸善
懲惡ノ更ニ付如何程ノ益アリヤナキヤ又ハ人ノ行狀ヲ良カラシムルヤ
又ハ惡シカラシムルヤヲ研究シ日本士民西洋ノ教ヲ其行狀ノ規

律トシテ崇尊スレハ善ニ至ルヘキヤ又ハ惡ニ至ルヘキヤヲ各人自カラ
知り得ヘキヲ以テ別ニ其研究ヲナス全權人ヲ命スルコトヲ勸メザル
ナリ

○此支法教論ノ大旨趣ニシテ日本ノ僧徒多分ハ海外ノ法教
毒ノ如キモノニシテ人ノ行ヒニ害ヲ生スルモノナリト考フル所ナリ今日本
ニテ法教ノ寬恕ヲ許スノ是非ハ其法教此ノ如ク大害トナルベキ
モノナルヤ又ハナラザルヤノ論ニ關係スルコトナリトス此支ハ材智アル人是レヲ
研究スレハ容易ニ理解シ得ヘキナリ然ルニ其研究ノ為メ 皇帝ヨリ
僧徒而已ヲ其全權ニ命スルコト多分ナルベシト雖モ余カ熟考シ
タル所ニテハ諸派ノ高位ノ僧數人ヲ全權人等ノ中ニ加フレバ

大ニ益アルベシト思ヘルナリ○僧徒ト同一ノ理ニテ鎖港黨ノ内ニテ
主頭タル者其位階ト其材智トニ準ジ使節附属ノ内上等下等ニ
加ヘ入ルコトアラバ必ズ大益アルベシ然ル上ハ其使節ヲ送ルコト方今
全國ヲ分裂スル徒黨ヲ親和セシムルノ基トナリ開港黨モ鎖港黨
モ僧徒モ皆其使節ニ加ハリテ其益ヲ得ルコトアレハ皆互ニ親睦ト
ナリテ使節ヲ海外ヘ送ルコトヲ良シト思フヘシ若シ然ラスバ其使節
ヲ送ル支ニ付疑惡スルノ心ヲ生スルモノ多カルベシ

増補

前文各國ヨリ返答スベキ
四ヶ條ノ後ニ入ルベシ

其外多分外國政府ヨリ言出スベキ所ハ歐羅巴亞米利加ノ
首都ニシテモストル及「コミュニケ」ヲ置クコトナルベシト雖モ此支ヲ研究

スルハ使節ノ頭タル人又ハ其次ノ位階アル士官ノ職掌ナルベシ

千八百六十九年癸六月十一日

上 驅惡金以火輪車之議

火輪ノ極メテ速カナルモノハ一ミニユトノ間ニ能ク一里ヲ馳セ英國ノ一里ハ我十五丁弱
其遲キモノト云ヘ共亦能ク十丁ヲ馳ス凡ソ世ニ人カヲ省キ冗費ヲ
減シ重キヲ載セ遠キニ行ク何物ノ便利カ能ク是ノ右ニ出テンヤ
所謂一瞬千里坐睡シテ行クト實ニ國家ノ至宝ナリ臣聞西洋
ノ諸洲錢道ノ相通スル一縱横蛛網ノ如シ宜マヤ其富强此ノ
如クナル火輪ノ器械ヨリ以テ人ト物トヲ載スル車二三十輛ヲ併テ
其價凡ソ我カ二万四五千金ノ上ニ出テス只錢道ヲ造ルノ資用ヲ
以テ大ナリト為スノミ然リト云ヘ臣錢道ヲ造ル我一里ノ資用其路
ノ平坦ナルハ僅カニ一万余金ヲ以テ能ク之ヲ濟ス峻峽ノ間ニハ亦只之ニ

三四倍スヘシ一旦之ヲ施コスノ資用ハ大ナリト云ヘトモ其人カラ省キ
冗費ヲ減スル千載不朽ノ利益ヲ以テ之ヲ考フレハ亦敢テ大
ナリトセス然ルヲ況シテ十年ヲ出スシテ其資ヲ収ムルヲヤ其便ヲ
知ラサレハ則チ止ム苟モ已ニ之ヲ知ル如何ニソ之ヲ施コサルヲ得ニヤ
横濱開港示来本邦ノ物産年々ニ増加ス就中生糸茶蚕卵
紙ノ如キハ之ヲ以テ十年前ニ比スレハ其殖スル一凡ソ十倍ヲ以テス可
シ然クシテ之ヲ運輸スルモノ或ハ牛馬シ或ハ負擔シ以テ二三百里ノ
遠キヨリス其贅費果シテ幾多ソヤ貿易ノ道ハ機変ニ處スル
ヲ以テ要トス負擔牛馬日ニ行ク一僅カ二十里以テ彼ノ凸鼻ノ狡
兒ニ接ス其機ヲ失シ其利ヲ耗スル果シテ幾多ソヤ本邦物産ノ

多キ信上岩陸羽ヲ以テ最トナス信ノ上田上ノ厩橋奥ノ福島
羽ノ米澤等は皆其ノ國產ノ轆ルマル所ナリ臣曾テ惟ミルニ東京
ヨリ奥ノ福嶋ニ信ノ上田ニ以テ二路ノ錢道ヲ通シ以テ國家ノ便ニ
供セハ富強ノ術坐シテ以テ待ツヘシト東京ヨリ兵庫マテ錢道ヲ通
スル

廟議已ニ決スルト聞ク希ハクハ信奥二國ヘノ錢道亦是ノ時ニ於テ
施コスヲ得ニ其資ノ如キハ臣併セテ上マツル惡金収合ノ策ニ就テ
之ヲ要ム可シ彼ノ惡金ハ紙幣ヲ以テ之ニ換ヘ其三分ヲ民ニ借ルニ
年二分ノ息ヲ以テス即チ各國ノ所謂國債ナリ其息ト紙幣局
ノ費用ハ彼ノ収合スル惡金ノ銀若シクハ銅ヲ以テ之ニ充ツルモ亦

必ラス剝リアルヘシ其三分ヲ府藩縣且貿易會社ノ融通ニ供シテ
其息ヲ我ニ收メ亦是レヲ此ノ錢道ノ資用ニ給セハ莫太ノ惡金
其三分ト云ヘ氏恐ラクハ一千萬金ニ下ラサルシ東京ヨリ信上奧福
ノ里程併セテ百二十里ニ過キス坦峻平準シテ一里程凡ソ三万金ヲ
以テ之レニ充レハ惣計凡ソ四百萬金ニシテ二路ノ錢道相通シ億兆
ノ幸ヒ何ヲ以テカ亦是ノ右ニ出シヤ毒ヲ以テ毒ヲ治シ不便ヲ以テ
便ニ換ヘ上下相損セス千載ノ業ヲ起シ萬姓ノ害ヲ去リ所謂一舉
兩全毫モ遺害ナカラシムルノ法ナリ謹シテ惟ミルニ方今
神聖上ニ在マシ賢相位ニ列シ病院ヲ設ケ教育所ヲ建テ貧ヲ
濟ヒ窮ヲ恤レム一天下ノ共ニ知ル所ナリ然ルニ國家ヲ富スノ基ヒテ

立テスシテ以テ目前ノ窮ヲ救ヒト要セハ臣恐ラハ事小惠ニ涉リ
日モ亦是ラスト語ニ曰ク至仁ハ天ノ如シト伏シテ願ハクハ天下ノ大利ヲ
興コシ蒼生ヲシテ德澤ノ内ニ在ツテ自カラ知ラサルニ至ラシテ是亦
難キニ非ス速カニ四海ノ惡金ヲ驅リ是レヲ取ツテ錢道ニ換ヘ以テ
大ヒニ人カラ省フキ亦大ヒニ冗費ヲ減シ彼ノ凸鼻ノ狡兒ヲシテ獨リ
其利ヲ網スルヲ得サラシメハ實ニ四海萬世ノ幸福ナリ願クハ臣カ
短才ト^{臣カ}文字ノ拙ヲ以テ萬世ノ大業ヲ兼テスハ臣實ニ萬死モ
辭セサル所ナリ伏テ願ハクハ照察ヲ乞フ^臣頓首頓首百拜敬白

午正月

^臣谷暘卿源應貞花押

上火輪車建議之餘論

夫レ國ノ開化ニ歸ムクマ天道ノ常自然ノ理人得テ詎ユ可ラサル
者ナリ上古ノ人木處穴居シテ以テ宮室トナスモノハ經營ノ理未タ
開ケサレハナリ木ヲ啣ミ草ヲ茹ヒ以テ人食トナスモノハ耕耨ノ理
未タ開ケサレハナリ結繩シテ以テ消息トナスモノハ文字ノ理未タ開ケ
サレハナリ然ルニ當時ノ人之レヲ以テ足ラストセサルモノハ蓋シ知覺ノ未タ
開ケサレハナリ唐虞ノ時ニ及ヒ宮室ヲ經營シテ以テ顛疾ノ憂ヒ去リ
五穀ヲ播種シテ以テ生養ノ道ヲ立テ文字ヲ作ツテ以テ消息ノ便
ヲ教ヘ牛馬ヲ以テ負擔ノカラヲ扶ケ舟楫ヲ以テ航海ノ用ニ供シ
人民ノ道日ニ開ケ月ニ進ミ三代ノ時ニ至リ始テ大ニ具ハルニ似タリ然ルニ

仲尼曾テ謂ヘルアリ曰ク後世恐ル可シト仲尼ノ意蓋シ未タ足
レリトセサレハナリ^臣曾テ宇内ノ形勢ヲ察スルニ其文運ノ開ケ器
械ノ富メル六大洲中歐ノ盛ニナルニ若クモノナシ實ニ一洲ヲ以テ五洲
ニ讓ラサルモノナリ何ヲ以テ能ク然ルヤ曰ク只文運ノ開クト器械ノ多
キトニ関スルノミ西人ノ諺ニ曰ク其國ノ貧富強弱ヲ知ラント要セハ先
ツ其器械ノ有無ヲ視テ以テ知ルト彼ノ國舟車ノ利特ニ開ラケ蒸
氣ノ理發明セシヨリ而來海陸其カラニ因リ以テ運輸ノ便ヲナス
宜ヘヤ其富強此クノ如クナル本邦ノ國タルヤ大東ニ才立シテ中古リ
外交ヲ要メス故ヲ以テ海外ノ事人得テ之ヲ知ルナシ是故ニ運輸
ノ事ニ於ケルヤ負擔シテ以テ足ルトナシ牛馬シテ以テ餘リアリトナシ

航海ノ事ニ於ケルヤ十里ノ津モ猶數朝ノ久シキヲ待ツテ達セス
然ルニ之ヲ疑ハサルノミナラス亦以テ足レリトナス宜ヘヤ民ノ耳目ノ開ケ
サル一歐ノ諸洲ハ我ヒヲ以テ之ヲ視レハ事已ニ十分ニ似タリ然クシテ
彼レ未タ以テ足レリトセス日ニ其巧ヲ究メ月ニ其術ヲ伸ヘ一年々其
國ヲシテ富強便利ニ趣ムカシム我レ若シ之ヲ知ラサレハ則チ己ム苟ク
モ已テニ之ヲ知ル如何シソ之ヲ恥チサレヤ火輪車ノ國家ヲ利スル
敢テ論ヲ待タスト云ヘ凡草莽無知ノ徒曾テ國家ノ大利ヲ知
ラス只傭夫驛舎ノ一時產業ヲ失ヒテ恐レ百方之ヲ拒ミシ
トス固ヨリ怪シムニ足ラサルナリ古者賢相人ノ相爭フヲ問ハスミテ
以テ牛ノ喘クヲ問フト苟クモ天下國家ヲ利スルノ道アル安ニシ彼ノ

傭夫驛舎ニ私シスルヲ得ニヤ且ツ負者擔者ノ産ノ移シ易キ何
ヲ欲スルモ敢テ難シトセス何ソ况ヤ國ニ曠土廢田ノ多キヲヤ平時ト
云ヘ凡是等ノ輩驅テ以テ良民ニ帰セシムヘシ何ソ况ヤ國家ノ大
利ヲ興シ漸ヲ以テ其機ニ及ホスヲヤ驛舎ノ如キハ三里若クハ二重
ノ間ニアリ以テ火輪車ノ休息所トナシ以テ人ヲメ上下セシメハ愈以テ
昌ニナラシムヘシ決シテ其産ヲ失ハシムルノ理ナシ今

王政維新ノ時ニ臨ミ苟クモ國家ヲ憂フルモノ敢テ黙視スルノ時ニ
非ス臣短才ト云ヘ凡嚮ニ愚金ヲ驅ルノ議ヲ上マツリ亦併セテ火
輪ノ事ニ及フ臣カ愚直ヲ知ラサルモノハ臣特ニ奇ヲ好ミ新ニ趨ルトナス
臣敢テ然カスルニ非ス私カニ各國ノ政體ヲ察シ亦大ヒニ恥ルアリ

是レ臣カ湯鑊ヲ甘シシ斧鉞モ辞セサル所ロナリ謹ンテ惟ミルニ方今
鎖港ノ風猶存シ苟且ノ弊未タ銷セス管見ノ説井蛙ノ論
日ニ益スニ甚タシ唯之レヲ以テ道路ニ話スルノミナラス豪然トシテ之レヲ
廟堂ノ上ニ説ク實ニ開化ヲ妨ケ富强ヲ害スルノ徒ナリ外夷ヲ惡
ミテ之レヲ禦クニ富强ノ術ヲ以テスルヲ知ラス及テ國家ヲ衰耗シテ
以テ外寇ヲ賛ケントス蓋シ亦過ラスヤ彼ノ輩常然説ヒテ以テ
道トナス所ロハ冗費トハ何ニ我カ負擔者ノ産ヲ立ル所ロ人カトハ何
ニ我傭夫者ノ生ヲ得ル所ト然レハ則チ牛馬ハ負擔者ヲ害スル
モノ舟車ハ國用ヲ害スモノ簡便ハ姑息ヲ害スルモノ開化ハ知覺
ヲ害スルモノ是レ即チ木處穴居禽獸ト等シカラテ欲スルモノナリ

海外人ナク宇下唯我レニミシテ以テ國ヲ建トハ則テ猶能クス可
シ決シテ為ス可ラサルノ事ナリ伏テ願ハクハ國家ノ大体ヲ履ミ
細利ニ執着セス小惠ニ拘泥セス亦彼ノ輩ノ是非スル關係セ
ス断然火輪車ノ命ヲ下シ海内ノ人民ヲシテ親カラ其便ヲ目
繫セシメンコトヲ語ニ曰ク百聞一見ニ如カスト之レヲ施スノ後亦大ニ
諸器械ヲ開ラキ桑麻ノ事蚕繰ノ事紡織ノ事精米ノ
事ヨリ以テ百般ノ器械ニ及ホシ我カ物産ヲシテ日益ス々蕃殖
セシメ以テ彼ノ金銀ヲ我ニ收メ普天下ノ紙幣ヲシテ自然收
合スル術ヲ立テスハ洋貨愈沸騰シ我カ
神州ヲシテ衰耗セシメンコト識者ノ論ヲ待タサルナリ今ノ時ニ及ヒ

猶且ツ因循ニ付シ方一其機ヲ失マルアラハ臣恐ラクハ天下ノ事實
ニ知ル可カラスト幸ヒ照鑑ラ乞フ臣應貞頓首々々百拜敬白
庚午年二月
臣 吉陽卿源 應貞花押

鐵道臆測

凡ツ事ヲ起スニ三要アリ曰ク經費ヲ算シ得失ヲ較シ用費ヲ辨ス
是ナリ經費明カナラサレハ事奉クヘカラス得失當ラサレハ事保スヘカラス
用費給セス何ヲ以テカ成事ヲ得シ故ニ知者ノ事ヲ起ス三要已ニ
胸中ニ了然タリ頃口鐵道汽車ノ事アルヲ聞キ人或ハ經費ノ如
何ヲ察セス得失ノ酬ヒサルヲ憂ヒ或ハ用費ノ辨セサルヲ恐ル堂々タル
政府ノ業瞭々タル識者コレヲ贊ス廟筭壽既ニ立チ方策已ニ熟ス
ヘシ豈此三者ナキノ憂懼アラシヤ豈ニ吾輩ノ臆測スル一吁ナラシヤ然レハ
人ノ或ハ憂懼スルハ實ニ愛國ノ至誠ナリ豈又コレヲ卑シトセンヤ故ニ
妄ニ臆測シテ三者ノ要ヲ略論シ陰ニ愛國者ノ憂懼ヲ慰ス

經費ヲ算ス

東京ヨリ横濱ニ達シ西京ニ通シ大坂神戸ニ至ル鐵軌ノ里數
山ヲ繞リ水ニ沿ヒ索纜蜿蜒概計スルニ一百五十里其十分八ヲ坦
道トシ十分一ヲ阪道トシ他ノ一分ヲ險道トス坦道ハ水直堅實ナラシメ
阪道ハ削テ平滑ニシ峻路ハ截テ峽道トナシ或ハ鑿テ坑道トナシコレニ
敷クニ鐵軌ヲ以テス固ヨリ實測スルニアラサレハ其精數ヲ得サルト虽モ
概シテ費用ヲ算スレハ坦道每一里一万五千兩坂道コレニ三倍シ險道
コレニ十倍トス或ハ低凹ノ地ヲ填メ或ハ江河溝渠ニ橋シ木石運輸傭
夫ノ支給鐵梁鐵柱汽車ノ價及ヒ村舎ヲ移シ田圃ヲ購フ等ノ
費其總計ヲ通算スルニ

一金百八拾万兩

東京ヨリ神戸ニ至ル概數百五十里ノ
十分八坦道百二十里水直堅實ナラシメ
且鐵軌臺石或ハ木材ヲ敷列スル等ノ費
大凡積リ 但一里一万五千兩

一金六拾七万五千兩

同斷十分一阪道十五里削テ平坦ナラシメ
且敷クニ木石ヲ以テスル等ノ費大凡積リ
但一里四万五千兩

一金二百二拾五万兩

同斷十分一險道十五里坑道峽道ヲ作り
且木石ヲ敷列スル等ノ費大凡積リ
但一里十五万兩

一金百五拾万兩

東京ヨリ神戸ニ至ル百五十里鐵軌ノ價
大凡積 但一里一万兩
江河溝渠ノ橋梁水陸陸防等造營
兼木石ノ費大凡積

一金二百万兩

一金百万兩

一金二拾五万兩

同斷鐵橋鐵梁并ニ鐵柱等外國ヨリ
買入テ代料大凡積
鐵器木石等運輸ノ費
大凡積

一金三十萬兩

並氣導車炭水車及客車荷車共十一具買上代料大元積

一金百萬兩

田圃買上村舎移轉セシムル費大元積

一金拾萬兩

外國人傭入費大元積

一金拾五萬兩

鐵道造管厩舎工作場及有司ノ給料其他雜費大元積

一金五萬兩

汽車發着ノ地會舎造管ノ費大元積

通計一千百十二萬五千兩

内 金八百七十七萬五千兩
金二百九十五萬兩

内國土木工作等ノ費
外國鐵器買入并外國人傭入ノ費

議者必ス曰ク頻年凶歉民ニ粟ナク物貨飛踊人ニ衣ナシ新タニ土木ノ功ヲ起シ千百万餘兩ヲ糜センヨリ寧口之ヲ民人ニ散シ以テ凍餒ヲ賑ハサント然レモ是老婆嬰兒ヲ憐ムノ情ニシテ嚴父健兒ヲ愛スル所以ノ

理ニアラス政府ノ民ヲ牧スル豈夫レ老婆ノ心ヲ以テセン夫レ自ラ脩テ以テ立チ自ラ勞シテ以テ養フハ天下ノ通義ナリ今此民ヲ救フニ嚴父ノ心ヲ以テシ教ルニ天下ノ通義ヲ以テセントス及テ此工ヲ興サルヘカラス物貨貴シト虽モ萬金猶三百人一年ノ命ヲ支フルニ足ル今八百七十七萬五千兩ヲ散シテ二拾四萬五千人餘ノ人ヲ養ヒ合セテ自脩自養ノ義ヲ督ス實ニ政府恤救ノ務ナラスヤ而シテ鐵軌鐵柱鐵車ヲ購ヒ外國人ヲ傭フノ費二百九十五萬ト虽モ己ニ今日ノ便ヲ興シ又永世ノ利ヲ起シ為メニ人知ラ宏濶ニ物産殷富ノ基ヲ建ツ是亦大ニ民ヲ利セスト謂ヘカラス

得失ヲ較ス

所得

東京ヨリ神戸ニ至ル汽車必ス直行スルニアラス横濱西京大阪其
他静岡名古屋等便宜ノ地ニ小憩所アリコニ於テ旅客物貨モ
各其便宜ニ随テ乗下積卸ス故ニ運賃モ亦從テ多寡アリトス然レモ
今試ニ其大概ヲ算スルニ東京ヨリ横濱ニ至ル毎日一千五百人ヲ往復シ
東京ヨリ西京大阪神戸ニ至ル三百人ヲ往復シ神戸大阪ヨリ西京ニ
至ル七百人ヲ往復シ物貨モ是ニ準スト定メ一日ノ所得

一金二千兩

東京ヨリ横濱ニ至ル三千人分
運賃

但上等駕者一人金一兩ヲ五百人分中等一人金三分ヲ一千人分
下等一人二分ヲ千五百人分ノ積

一金二百五十兩

東京ヨリ横濱ニ至ル物貨一萬貫目
運賃

但物貨ノ運賃大サヲ以テ定ムアリ重サヲ以テ定ムアリト虽モ之ヲ

概シテ十貫目金一分ヲノ積

一金八千五百五十兩

東京ヨリ西京大阪神戸ニ至ル六百
人分運賃

但東京ヨリ西京大阪神戸ニ至ル運賃各差別アリト虽モ

今之ヲ平均シテ上等一人金二十五兩ヲ五十人分中等一人

金十七兩ヲ二百五十人分下等一人金十兩ヲ三百人分ノ積

一金千兩

同断物貨五千貫目ノ
運賃

但運賃各差別アル前ノ如シト虽モ概シテ十貫目金二兩ヲノ積

一金千二百七十五兩

神戸ヨリ大阪西京ニ至ル千四百人ノ
運賃

但運賃各差別アリト虽モ今平均シテ上等一人金一兩一分ヲ

二百人分中等一人金一兩々五百人分下等一人金三分々七百人分積

一金三百七十五兩

同新物貨一萬貫目ノ運賃

但同新各差別アリト虽モ今概シテ十貫目金一分試米ツノ積

合金一萬三千四百兩即チ一月三十日四十萬〇二千兩一年三百六十日ニシテ四百八十二萬四千兩ナリ而シテ能ク之ヲ精算セハ東海道中神奈川ヨリ小田原沼津ニ至リ或ハ静岡ヨリ濱松岡崎ニ達シ此小憩所ヨリ彼小憩所ニ往來スルノ運賃及ヒ信書往復ノ賃錢等モ亦百七十八萬兩ヲ下ラサルヘシ且乗車切手或ハ會社

株切手ノ息モ十數萬ノ多キニ至ラン故ニ通シテ六百萬兩トス

所失

石炭并ニ機關司火夫傭丁ノ給料鐵軌道路橋梁汽車修繕其他一切ノ費用ハ統計所得ノ三分一ト定メ即チ二百萬兩外ニ鐵道造營ノ元金一千百〇二萬五千兩ノ年一割二分ノ利息百三十二萬三千兩合金三百三十二萬三千兩ナリ

故ニ得失ヲ較シテ二百六十七萬七千兩ヲ全益トス是ヲ以テ五年ヲ出テス元金ヲ償フヘク已ニコレヲ償フノ後ハ年々四百萬兩ノ益ヲ得ヘシ

或ハ云ク吾邦俗陋野慣習懶惰ニシテ未タ嘗テ時限ヲ惜ムテ知ラス一小時間ニ卒ルノ業モ仍十數日ヲ經過シテ敢テ迂緩トスルニ至ラス

或ハ一郷ニ逡巡シテ他邦ノ物況ヲ探ルニ意ナシ故ニ汽車開ルノ日
恐クハ之ニ駕スル者至少ミシテ大ニ此算違差ヲ生セント然レモ文化
漸ク進ミ人知稍明ナリ此工落成ニ及フノ日人皆其便ヲ鳴謝シテ
争ヒ駕スルニ至ラシカ殊ニ其價廉シテ兩京ノ間僅ニ十金コレカ為メニ
往來ヲ繁ミシ車客ヲ容ルニ席ナキニ至ラサルモ亦必スヘカラス故ニ此算
概數ト虽モ大ニ違差ヲ生セサルヘシ

用費ヲ辨ス

國化開テ億兆知識ヲ具スレハ政府其力ノ樞軸トナリ民知未タ明
ナラサレハ政府宜シクコレカ嚴師トナルヘシ吾國文化已ニ開ケタリト虽モ
民知未タ具スルニ至ラス故ニ機械ノ便ナルヲ知ルト虽モ自ラ扱テ之ヲ

起スモノナク自ラ立ント欲スト虽モ力コレヲ支ル能ハス自カノ支ル能ハ
サルヲ知り衆ヲ合セント欲スト虽モ相猜疑シテ合スルヲ得ス是ト大工ノ
舉ラサル所以ナリ故ニ政府嚴師トナリテコレカ方法ヲ授ケコレカ道理ヲ
教ヘ以テ衆ノカヲ合セ至便至利ノエヲ與サシムヘシ今此鐵軌火輪ノ
工政府獨リ利スルニアラス民ト共ニコレヲ便ス宜シクコレカ方法ヲ明ニ廣ク
民カヲ聚合シテ永ク其利ヲ保全セシメ當此工ヲ止ムノミナラス郵船
通商製作等皆此方法ニ準テ開成スヘキノ理ヲ教フヘシ其法左ノ
如シ

先ツ國內ノ富商豪農ニシテ篤實方正人望アル者ヲ撰テ會主ト
ナシ鐵道會社ヲ結ハシム而シテ其會社ヲ結ハシムルノ理ト其社ノ規則

嚴明ナルト政府ノコレヲ准理保護スルノ證鐵道工作ノ全費年々所得ノ數及ヒ車道修繕其他ノ費且元費ヲ償フヘキ年限等ヲ精細詳明書載シテコレヲ天下ニ公告シ人々其利アリテ且信スヘキヲ知ラシム已ニ其工ヲ創メ仮令ハ鐵軌橫濱ニ達スルキハ直チニ汽車ヲ運用シテ愈利アルヲ信セシム是ニ於テ鐵道會社元金株切手ト稱スルモノヲ製スルノ理コレヲ販賣スルノ法及ヒ規則ヲ詳明ニシテコレヲ天下ニ公告シ從テコレヲ製造販賣セシム今其規則ノ大概ヲ奉ニ

一切手ハ千兩ヨリ百兩マテ全費一千百〇二万五千兩ニ滿ルヲ度トシテ製造ノ事

一 毎切手番号ヲ附シ會社ノ極印并ニ割印ヲ押シ且ツ政府ノ證

印ヲ受ケ永世ニ亘リ謬違廢絶ナキヲ證スル事

一 元費ノ償ヒ其數ニ滿ルマテハ總テ所得ノ金ヲ會社ニ積立テ切手ヲ正金ト引換サル事

但シ年々積立金高新聞紙ニテ公告スヘキ事

一 前同斷積立年限中八年一割二分ノ利息拂ヘキ事

一 前同斷積立ノ上ハ正金ト引換何時ニテモ差支ナキ事

一 前同斷積立ノ後切手買主勝手ニツキ正金引換サル者ハ總テ社中ノ者ト認メ年々所得ノ益ヲ其切手金高ニ應シ公平ニ分配スヘキ事

一 東京ヲ本トシ兩京大阪神戸橫濱静岡等ニ會社出張所ヲ置キ切手引換并ニ利息ヲ拂ヘキ事

但利息ハ一年兩度ノ期限ヲ立テ拂ヘキ事

一切手ハ買主ヨリ何人ニ賣渡スル勝手タルヘキ事

但賣買ノ節會社ニ届クルニ及ハサル事

一年々所得所失ノ合數ヲ利息拂ヒ期限前ニ公告スヘキ事

一切手持主會社ノ本帳一見ヲ請フキハ異議ナク示スヘキ事

一利息請取ノ節其利息高ノ百分一手數料トシ會社ニ請取ヘキ

事

此ノ如クニ人皆其利アルヲ信シ且計算ノ公ナルヲ認メ利息掩滯引
換拘留ナキヲ知ラハ各喜テ其切手ヲ購ヒ金ヲ會社ニ聚蓄スヘシ
是レ此エヲ起スニ方リ金ヲ下ニ募ルニアラス又外國ニ借ルニアラス政府

コレカ嚴師トナリ民ニ簡明ノ方法ヲ授ケ衆力ヲ合スル道ヲ教ヘ至便
至利ノエヲ興シ永ク國人ト其利ヲ占メ能ク此業ヲ卒ルノ術ニアラスヤ
允ツ事信ナレハ衆力合ス衆力合セハ婦女子モ萬鈞ヲ扛奉スシ堂々
タル政府ノ奉ミシテ國民ノカヲ合ス豈啻錢道一千百万ノ費ノミナシヤ

頃日御面話之砌御尊仕置候御國內轍道御設立
之儀ニ付愚意淺見之次第左ニ奉申上候

英國ニオキテ最廣長ナル機械師チャールスワックス君ノ
代人トシテ余日本政府へ左ノ件々ヲ建白ス

第一條

御國內何レノ地ヲ論セス政府ニオキテ相當ノ元金ヲ費シテ
轍道ヲ設立セントナレバ出来満全ノ上運用ニ付要スル所ノ
本車、遷客車、輜重、傳信線、立場、暗號器、其外
必用ノ諸物ヲ合シ轍道一線日本一里ニ付其價凡洋銀七
萬六千八百弗ナルベケル其全價ノ百分五即五分ノ益分ヲ以テ

其建築装置悉ク余輩ニオキテ之ヲ引請クベシ

此轍道ハ鑄鐵ノ臺ヲ用ヒ鉄線間ノ巾四フットハイチ半鐵
道ノ重サ一ヤード毎ニ五十磅ニシテ其製作ハ最善美ヲ盡シ
最丈夫ナルヲ主トスルモノニシテ方今專ラ歐羅巴諸洲就中
英國ニオキテ用ユル所ナリ

右ノ如クスルニ日本政府ニオキテ兼テ其筋ノ役負ヲ命シ置余
輩ニオキテ費用スル所ノ眞ノ入用高并其仕譯ヲ時々検査
スルヲ得ベシ

第二條

若シ政府ニオキテ相當ノ費ヲ出スラ欲セズバ左ノ約ヲ以テ余

輩ニオ升テ之ヲ施行スベシ

先ツ政府ニテ所用ノ轍道設立ノ儀ヲ免許シ而シテ後其價ニ滿ツルノ債金證書ヲ出シ此金高ニ附スルニ一ヶ年九分試ノ利足ヲ確約スヘシ勿論右證書并利足共轍道及ヒ其歳入ノ高ヲ以テ引當トスベシ如此セハ政府ニテハ府庫ノ一錢ヲ費サズシテ一轍道ヲ得ベシ何トナレバ京撰間ノ如キ地ニオ升テハ轍道所得ノ歳入遙ニ利金ノ上ニ出スレバナリ勿論過上之利益ハ之ヲ政府ノ所得トス譬ハ京撰間十里ノ轍道一月往返共遷客之數各一千五百人宛輸荷ノ重八百噸ナル時ハ

一日遷客ノ數 三千人 但壹人 四分一弗

一年 三百六十日 合シテ 二十七萬三千七百五十弗

一日輸荷ノ重八百噸 但一噸 半弗

一年 三百六十日 合シテ 十四萬六千弗

歳入惣計 四十一萬九千七百五十弗

此處 轍道代價 七十六萬八千弗

此一ヶ年九分ノ利足 六萬九千二百二十弗

運用雜費 轍道及ヒ運車修理其外

二十萬。千四百八十弗

非常臨時入用 三萬弗

合三十萬。六百弗

差引殘金

拾一万九千五百五十弗

轍道一線十里ニ付
一年全益分

右ハ方今高賈ノ形勢ヲ見テ算ヲ立ル所ナリ然リトイヘ
轍道成就ノ際ニ至ラズ高賈ノ勢ヒ今日ノ數倍ニ至ラン
不待論シテ瞭然タリ

若又轍道ヲ西京ヨリ琵琶湖ニ通シ湖水ヨリ又之ヲ西海ニ
連スルニ於テハ高賈ノ勢倍盛大ヲ極ムルニ至ラン
重轍道ヲ設立スルハ徒ラニ大金ヲ費シ又米利堅ノ則ニ從ヒテ
之ヲ設クル時ハ修復ノ費廣大ナルガ故ニ必竟コレ等ハ捨テ問

ハス總テ鐵製ノ輕轍道ヲ設ケ玉ヒテ全輩ノ最希望スル
所ナリ夫ハ一字間三十マイルヲ走ルノカアルモノナレハ御國內
高賈ノ用満全セルモノト云フベシ

右轍道彌御設立之期ニ至リ候々余輩建言之次第
御採用之程奉伏祈候拜具謹言

於大阪千八百七十年第四月廿六日

テ、ウヲトルス

千八百六十九年十一月十七日

今度考得タル一年一度ノ展覽會ヲ開クニ付テハ別格ノ法方ヲ設ケタリ就テハ皇帝陛下ノ展覽會長官各國政府厚ク下件ニ着意アラシムヲ望ム

展覽會ヲ開キ大ヒニ裨益アルハ世人知ラサル者ナシ故ニ今茲ニ贊セス旧来ノ仕方ニ因リテハ各國政府及ヒ其國ノ人民展覽會ニ物品ヲ出ス者莫太ノ入費ヲ出セル人々ノ知ル所也是ニ因テ今皇帝陛下ノ長官勉メテ費ヲ省キ旧弊ヲ除カンテ欲シ別紙ノ通り規則ヲ定メタレハ毎章一字ヲ附シ以テ各件ヲ記ス

A

展覽會ニ送ル物品ハ總テ精選ヲ遂ケ然後其場ニ送入スヘシ

C

且其數ノ多ヲ要セス

各國政府製造品ノ巧拙差等ヲ點檢スル者ヲ命シ其者ノ選

舉ヲ經タル物ニアラサレハ展覽場ニ入ルヲ免サス

D

初度ノ會ニハ百般ノ雜品ヲ入レス只三種ニ限ルヘシ即チ陶器毛織

物及ヒ羊毛ノ未タ織物ニ製セサルモノ其他學術導教ニ係ルモノ

E

展覽場ニ送ル品主ハ前ニ舉ル三種ノ内ニ屬スル製造品ノ見本一個

ヲ差出スヘシ且各品精巧ヲ極メヌハ全ク新規ニ出ルノ功アルヲ要ス

I

展覽場中ニ玻璃匣臺及ヒ其他要用ノ物具ヲ備フルハ皇帝陛下

政府ノ入用タルヘシ前ニ舉ルA C D 及ヒEノ規則ハ今度ノ展覽

會ノ入費及諸品運輸ノ入用ヲシテ千八百六十二年ノ展覽會入用

ノ凡五分ノ一ニ減セシメカ為ニシテ I K ノ規則ハ各國政府及ヒ其
國品主ヲシテ匣箱臺等ヲ設ルノ入費ナカラシメン為ナリ故ニ各國
長官出スヘキ入用ハ國產選舉ノ時及ヒ其品ヲ當國迄運輸スル
費用ノミナリ且各國其コンシユル館ヲ立置上ハ倫敦府中諸般ノ
事務ヲ取扱フニ差支ナカルヘシ

各國其風習便宜ニ就キ國產製造品ノ精粗巧拙ヲ選舉スルハ
勿論ナリト雖若望ム者アラハ英國ノ規則其他展覽場ニ千係
スル諸般ノ報告書ヲ送ル一當國長官ニ於テ差支ナキ處ナリ是ニ因
テ各國ニ於テモ速ニ官負ヲ命シ今度展覽會一途ニ付諸事協議
シ品主ノ費可成。減少スル様適宜ノ處置ヲ為ス一ヲ望ム

千八百六十九年七月三十日

第一千八百五十一年ノ博覽會長官製造技藝百般ノ物品最モ
精巧ヲ極ムルモノヲ聚メ年々倫敦府ニ於テ展覽場ヲ開ク一ヲ決
定ス是ニ依テ千八百七十一年ヲ以テ初度ノ會ヲ催フスヘシ

第二此舉ヲ為スニ付テハ總體ノ規則等ヲ別冊ニ掲載ス

第三今度ノ展覽會ハ前年當府ニ於テ開キタルモノト大ニ異ナル
處アレハ今其事ヲ知ラシムルモ亦益ナキニ非スト思フ且建物モ前ニ比スレハ
小ナリ允テ物品ハ送入ノ以前裁判役熟選シテ進退ヲ定ムヘシ毎年
展覽場ニ入ル製造品ハ僅ニ數種ニ止マル且排列ノ方ハ旧法ヲ廢シ
國名ニ係ワラス品ノ種類ニ從テ分別ス品主ハ展覽會終ラサル間物

品ノ取扱ヒ及ヒ飾立ノ入用ヲ出スニ及ハス期限ハ五月第一日開キ同
九月三十日ニ至リ閉スヘシ

第四各国一個ノ空地ヲ區分シ之ヲ專領スルヲ得ス只各品區分ノ地
ノミヲ得ヘシ此區分地ノ外各国品主其物品ヲ展覽場ニ入ル准允ヲ
得ルニ當リテ英人同様ノ便宜ヲ得ヘシ

第五前ニ舉ル如ク諸事一變セシ上ハ各国人ニ取り前年ノ展覽會
ニ比スレハ更ニ簡易ニシテ費用モ亦從減少ス依テ各國政府此事務ヲ
取扱フ官員ヲ命シ速ニ皇帝陛下長官ト往來スル様處置アリテ望
ム且此會ニ來集スル品主ハ相當ノ地ヲ區分シ且每人ハ證書ヲ与フル此官員
ノ職掌タルハ皇帝陛下長官此證書ヲ見テ物品ヲ受取之場ニ排列ヘシ

○百工技藝諸學術上ノ新發明選舉ノ物品年々ノ展覽會

千八百五十一年展覽會長官之ヲ管轄

最初ノ會ハ千八百七十一年ニ催シプリンスオフ、ウエールス閣下之ヲ統領ス

プリンスキリスティアン閣下

デュークオフ、ブツクレン

デュークオフ、ブツキンハム

デュークオフ、ブツキンハムエントチアンドー

イェル、デグレイエント、リッポン 展覽會議事長官

イェル、デルベー

イェル、ルツセル

ロールトポルトメン

ロールト、オーウルストーン

ゼ子ラルデオノレーブルシゲレト

ライトオノレーブルドリウイダレードストーン

ライトオノレーブルベンジアマシテイスレリー

ライトオノレーブルロベルトロウ

ライトオノレーブル、エス、エトチノールトコート

ライトオノレーブルギョングブライト

ライトオノレーブルドリウイ、スルストル 教道寺館ノ副長官

ライトオノレーブルシルアレキサンドルワイスフォルメン

商社ノ長

ライトオノレーブルエ、エスエールトン 建築方第一等官ロ員

シルチアルレスライエル

シルロードリック、アイ、モルチツソソ

シルトーマスバーレー

シルフランシスゲラント

シルフランシス、アルサンフラルト

トーマスヘーリンクイスクワイル

エジアル、エ、ボーリンクイスクワイル

トーマスフェールベルンイスクワイル

トーマスフィ、ルトギブソニイスクワイル

チャルレスビーウイゲノル

建築學校

プロフツワールヒュキスハレー

地質學社中ノ長官

ドクトルライオンプレーフェール

ヘンリースリクイスクワイル

A

千八百五十一年ノ展覽會長官今度百工技藝及ヒ學術上新發明ノ諸品ヲ選舉シ年々展覽會ヲ催フシ第一ノ會ハ倫敦サウスケンシングトンニ於テ千八百七十一年五月第一日ニ開キ同九月三十日ニ閉スヘシ。此展覽會ハ永世不朽ノ建物ヲ造営シ其内ニテ場ヲ開クヘシ即今草木養植社園ノ傍ニ於テ建築中ナリ

B

C

各國ノ製造品珍奇精巧ヲ極メ實ニ展覽場ニ出スヘキモノハ裁判役ノ證書ヲ得テ後何國ヲ論セス盡ク場中ニ入ルヲ免スヘシ

D

第一ノ展覽會ハ下モニ舉ル物件ヲ聚集シテ催フスヘシ各品部類毎ニ別ニ官員ヲ置論說ヲ詳記スル者モ亦附添フヘシ

第一ノ部 百般ノ技藝

但實用ニ立ヘキモノ及ヒ實用ニ功ナキモノ

第一各種ノ画但シ淡着色、油画、蠟製陶器ノ製玻璃及ヒモザイク細工等ナリ

第二蠟石、堅石、木金族、象牙玻璃寶石及ヒ他ノ物材ヲ以テ彫刻シタルモノ又ハ雛形坊出シ物ノ類

第三圖面石版類寫真画

第四建築方細圖、画、及ヒ雛形トナルヘキ画圖

第五各種ノ織物鋪物縫取ノ類及ヒ織物ヲ製シタル婦女子ノ飾具

但シ其製造ノ精粗ヲ見ニ非ス其着色画風ノ品等ヲ論スルタメナリ

第六凡テ建築方藻飾タルヘキ画圖

第七太古或中古時代ノ画、モザイク細工及ヒ陶器ヲ摸タルモノ其外古代諸器ヲ石灰又ハ人ノ象牙ヲ以テ摸タルモノ

第二ノ部 製造物、機械未タ物ニ製セサル物材

第八各種ノ焼物土器石器平常ノ陶器パリアン石ヲ以テ製シタル器

及ヒ建築ニ用ユル粘土其他凡テ實用ヘキ新奇ノ物材新規ノ機械又之ヲ製スル新法

第九羊毛其外總テ毛織物新ニ種ノ物ヲ發明セシカ又ハ別ニ之ヲ製スル新法及ヒ獸毛ヲ織出ス新工夫ノ機械

第十學術教導ノ諸物件及ヒ其用方

α 学校ノ建物要具学校内ニテ用ユル器物

β 書籍地圖、地球學術上ノ道具類

γ 宛理学ヲ容易ニ熟セシムルタメノ児童ノ玩具將楮ノ類

δ 技藝博物学宛理学教導ノ法方ヲ著述セシ書

ε 各學校於テ教導ヲ以得タル結末ノ可否ヲ論スル書

第三ノ部 學術上發明ノ諸品

諸製造產物高買上ノ細密ナル規則及ヒ總表ヲ出版スヘシ

第四ノ部 草木養植ノ術

珍奇ナル草木菓實野菜花卉各種ノ養植法方ヲ明カニ說示シ
前ニ述ル展覽會ト同時ニ展覽場ヲ開クヘシ其規則及ヒ其他ノ書
類ハ追テ英政府ノ草木養植社中ヨリ出版スヘシ

E

第二第三ノ部ニ云フ凡テ物ヲ製造スル者ハ其品每一種一個ノ見本ヲ
差出スヘシト但シ各品新工夫カ又ハ精巧ノ他ニ超勝スルヲ要ス

F

物品排列方ハ展覽會是迄ノ旧風ヲ改メ國々ヲ以テ區分ヲ立ス只物ノ
種類ニ從テ區分ヲ定ムヘシ

G

各區分地ノ内三分ノ一ヲ以テ自國政府ヨリ場中加入ノ准允證書ヲ得
タル者ハ与フヘシ各國ニ於テ其裁判役ヲ命シ區分地ノ内二分ハ英國ノ
產物或ハ直チニ英國裁判役ノ准允ヲ得ルタメ送入シ來ル物品ヲ以テ
充ツヘシ且場中ニ入り難キ物品ハ其報ヲ得次第速ニ其所ヨリ引取ル
ヘシ及ヒ一旦場中ニ排展スルモノ展覽會終ルマテ之ヲ他處ニ運出スルヲ
免サス

H

凡テ展覽場ニ出スヘキ物品ハ其場ニ來リ官員ニ引渡シ包ヲ解キ直チ

I
ニ場中ニ入ルトモ差支ナキ様為置ヘシ但シ運輸ノ車料ハ品主之ヲ
拂フニ及ハス

I
銘々領シ得ル地ハ別ニ地租ヲ出ニ及ハス且玻璃ノ大匣臺其外必要
ノ諸具及ヒ蒸氣力水カホ皇帝陛下ノ長官ヨリ給与ス是モ亦其價
ヲ償フニ及ハス但シ蒸氣機械自國ノ官員ヲ以テ運用スル時ハ自分入用
タルヘシ

J
皇帝陛下ノ長官場中ノ諸品ヲ最モ叮嚀ニ取扱フト雖破損紛
失ホニ至リテハ聊關係ナカルヘシ

K
每品價ヲ付品主競フテ價ヲ知ラシムヘシ各主ノ都合ニヨリ手代ヲ命シ
物品ヲ取扱ハシムヘシ

L

每品何故ヲ以テ展覽場ニ上ス又斯々ノ新法或ハ格外他品ニ勝レル
所以ヲ細カニ記シテ其品ニ付置ヘシ

M

排列ノ地位ヲ正フセシカ為各品種類ヲ分チ日ヲ定メテ受取ル様前以
布告スヘシ其節ニ臨ミテハ專ラ嚴整ヲ旨トシ錯誤ナキ様處置ス依テ
外國品英國産ノ差別ナク受取日限ノ後ニ至ルモノハ決シテ場中ニ入ルヲ
免サス

N

開場後直チニ各品ノ評論ヲ細記シ千八百七十一年六月第一日迄ニ出
版スヘシ

O

展覽場中ノ諸物品功益ヲ記取スルタメ各國官負ヲ命スルヲ勝手
タルヘシ

P

褒賞ノ印ヲ与フルヲナシト雖展覽場ニ入リシヲ證スル書附ヲ各品主ニ
與フヘシ

Q

品表ハ英語ニテ出版スルト雖各國ニ於テ要用ト思ハ、其國語ニ翻譯
スルヲ更ニ妨ナシ





